

令和元年度

事業所名： グループホーム 絆中ノ橋

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100451		
法人名	有限会社 絆		
事業所名	グループホーム 絆中ノ橋		
所在地	〒020-0871 盛岡市中ノ橋通1丁目13-10センターヒルズ2階		
自己評価作成日	令和元年8月 日	評価結果市町村受理日	令和元年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>食の楽しみを持たせるように、食事やおやつに工夫を凝らしている。できるだけ、生活に必要な身体機能を低下させないように一日を過ごすことができる場を目指している。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&amp;JiyosyoCd=0390100451-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&amp;JiyosyoCd=0390100451-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、都市の中心市街地に位置し、周辺にはバスターミナル、事業所、商店街、医療機関、介護福祉施設などがあるマンションの2階に設置されている。運営にあたっては、法人の運営理念に基づき、利用者の能力を生かした自立した生活を支援することを目標としている。職員は、職員会議やミーティングを通じて理念を共有し、利用者と職員が共同の生活者として、利用者や家族の意向に沿い、きめ細かな介護サービスを提供している。特に、身体拘束廃止で掲げた「自分がされたら嫌なことをしない。」を職員に徹底し、職員とのコミュニケーションを図りながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年10月4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム 絆中ノ橋

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有の為、毎月の職員会議の中で職員による運営理念の唱和を行っている。	法人の理念に併せ、事業所としての方針「利用者に寄り添いながら、自分がやられて嫌なことはやらない」をもとに、利用者の能力を生かしながら、家族的な雰囲気のもと、利用者の今までの生き方を把握して、人生観を大切にしながら日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中ノ橋1丁目町内会の組織が実際には存在せず、近隣町内会との連携も困難な状況にある為、管轄包括支援センターへ支援要請を出している。	市街地にあり、一般住民が少なく自治会の活動もないため、認知症カフェへ参加したり、近隣の介護施設と情報交換をしながら、地域と連携する取り組みを進めている。保育園児や男性コーラスグループの来所もあり、継続できるよう取り組んでいる。	民間のボランティアへの更なる働きかけを行うなど、地域との連携について、より一層の取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	男性コーラスグループ(シルバーダックス)の慰問などにより、地域の方々との交流を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。運営推進会議への出席者は、地域包括支援センター(毎回出席)、利用者のご家族、職員である。出席者の方々を利用者に対するサービス内容の報告や問題点などの話し合いを行っている。	地域包括支援センターからの助言や提案のほか、家族代表からの要望などが出され、業務に反映させている。地域を代表する立場にある方の出席を働きかけているが、開設から時間が経っていないなどの現状から、実現に至っていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議議事録提出により、当グループホームの現状報告を行い協力関係を構築している。	市主催の法改正の説明会や研修会に出席しているほか、家族の要請により、要介護認定申請の手続きを代行し、その際に市の担当者から指導・助言も得ている。また、各種行政情報は、文書やメールで入手しているほか、電話等で随時照会している。地域包括支援センターとも密接に連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議と併せ、身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束をしないケアについて正しい知識を深めている。	身体拘束廃止委員会は、毎月の職員会議後に開催し、その都度、他施設の事例や課題などを話し合い、趣旨の徹底を図るとともに、毎朝のミーティングで確認している。施設の玄関は終日施錠せず、移動確認のセンサーの利用も無く、身体拘束の事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎朝の申し送り打ち合わせや、月一の職員会議を通して高齢者虐待防止について確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止と同様に、申し送りや職員会議の中で権利擁護に関する理解を確認し日々のケアに活用するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際にご家族へ適切な説明をし、不安や疑問点を解消できるよう説明を行い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時の家族から受けた意見、要望を受け、運営に反映している。	家族等の来所の際に、意見や要望等を聴き取りしているほか、毎月発行の「絆だより」を郵送し、施設内の活動状況や認知症に関する情報を提供しながら意向の把握に努めている。利用者からは、要望が少ないため、職員が選択項目を示しながら意向を把握しようと努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議を通し、職員の意見や提案を受け、運営に反映させている。また、管理者と職員との個人面談を随時行い、普段から意見交換ができる雰囲気作りに努めている。	職員会議や毎日のミーティング等で職員の意見や要望等を把握しているほか、何でも話しやすい職場環境のもとで、個別の勤務体制や資格取得、業務への提案など、随時、意見・要望を聴きながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の勤務状況を把握しながら、労働時間、労働環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修のほかに、外部研修にも積極的に参加させ職員の介護ケア向上推進に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会やいきいき財団主催の研修参加を通して、同業者と交流する機会を設ける取り組みをしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安なことや、要望等には応えるようにしているので、信頼関係が出来てきている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って、利用者本人の希望に沿うことにより家族との信頼関係も構築できている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要としていることを見極め、今現在対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族同様の対応で過ごしている事で、良好な関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望に応えると共に、家族様の都合や立場を考え支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	難しいことではあるが、なるべく知人の訪問などお勧めしている。	知人、友人がお土産持参で来所するほか、家族の協力を得て、地域の敬老会への参加、伝統の秋祭り、チャグチャグ馬っ子の見学や馴染みのカフェでのお茶などにも連れてってもらっている。2か月毎に出張サービスに来る理美容室とも馴染みになり、利用者は楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を理解した上で、憩いの時間等の対応に工夫し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況変化に随時対応し、個々に適した行先の選択について情報提供に努め、相談支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向が確認できる範囲で、支援に努めている。	自分の意思や要望を伝えることの出来ない方もいるため、職員は寄り添いながら、仕草や表情、日々の会話の中から意向等の把握に努めている。家族の面会時にも利用者の様子などを家族から聴いたりしながら、支援に努めている。利用者は、日々テレビの視聴、読書、新聞、ゲームや折り紙などで楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り職員全員がアセスメントを踏まえ、状況把握に努めている。そして、情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が業務内において、一人一人の状態観察を行い、現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議とケアカンファを行い、現状に即した計画を作成している。	計画は6か月ごとに見直している。毎月の職員会議でのカンファレンスや職員によるモニタリングを行い、。医師の指導や看護師の助言も盛り込みながら、ケアマネージャーが確認しプランを作成している。来所した際に家族に説明し意向を伺い、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が業務内において、一人一人の状態観察を行い、職員間で情報共有し、計画の見直し等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスでは出来ないニーズに対して、サービス提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源がなかなか見つからず、協働できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による定期的な訪問診療の利用を基本としながら、個々のかかりつけ医との連携もできるよう配慮している。	かかりつけ医の通院は家族同伴の受診としているが、7名の利用者は月1回の協力医の訪問診療を受診し、2名が従前のかかりつけ医を受診している。精神科の受診を含め、3名が家族同伴で受診している。現在1名の利用者が入院している。感染症(インフルエンザ)の予防接種は、協力医をお願いしている。訪問看護ステーションの看護師が毎週1回来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と情報共有しながら、随時適切な対応が受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換や、相談に努め関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの経験はないが、重度化の対応と併せて事業所でできることに対応し、必要に応じて家族と連絡をとり、支援している。	入居時に重度化した場合(看取り含む)の指針に沿って家族等に説明し、了承を得ている。重度化した場合は、改めて家族の意向を確認し、他の医療機関への移送等を支援している。施設内での看取りやターミナルケアの実績はない。看取り介護の在り方等について研修の必要があると職員も認識し、ミーティングの後に勉強会を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所で出来る範囲の対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内研修に於いて、対応方法について全職員が研修している。地域との協力体制は構築できていない。	避難訓練は、消防署員の立ち会いで実施したほか、夜間想定訓練も実施した。ハザードマップを施設内に掲示し避難場所を確認している。食材は4日分備蓄し、ガスコンロ、反射式ストーブも用意している。近隣に職員が居住しており、緊急時には速やかに対応出来る体制が整っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性に合わせた言葉かけや対応をしている。	個人情報、簿冊で管理している。毎月発行の「絆だより」への写真掲載は、家族の同意を得ており、配布も家族としている。職員は、利用者の生い立ちや過ごされて来た状況を把握し、言葉掛けや接し方から個人の尊厳を損なう事のないよう努めている。排泄を失敗した方への対応は、利用者の心情を大切に、様子や仕草をみて、清拭、シャワーなどで対応している。居室のドアの窓カーテンは、希望により設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの個性に合わせて、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの要望を優先し、希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを尊重し、身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強い出来ない為、利用者と職員と一緒に準備や片付けは出来ない。	食材は職員が2日分を発注し、必要に応じ、買出しに行き揃えている。手作りを心掛け、調理は職員が行い、利用者の状況によりキザミ、トロミ食を提供している。行事食は、ちらし寿司、冷やし中華や煮物の入った一人ずつのセットを購入し、季節を感じられるよう工夫している。おやつは利用者の好きな物を作り、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランス、水分量を毎日記録し、良好な状態を保てるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の助言を受けながら、毎食後口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立で排泄できる方に対しては、自立に向けた支援を行い、自立出来ない方に対しては状態に応じた排泄支援を行っている。	排泄チェック表でパターンを把握し、案内、誘導している。自立者は2名で、布パンツ1名、オムツ1名のほか、パット併用のリハビリパンツを使用している。夜は2時間おきに定期巡回を行いトイレに誘導し、失敗した方には清潔を保つよう心掛けながら、自立に向けた支援を行っている。夜間のポータブルトイレや移動確認センサーの利用はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の乳酸菌飲料の提供、朝食のヨーグルト等提供で便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に沿った支援はなかなか難しいが、拒否のある時は曜日・時間をずらして対応している。	週2回の入浴とし、利用者の都合により、足湯、清拭の場合もある。入浴時間は20分程度であるが、40分と長湯の利用者もいる。入浴時は謎めいた話や世間話で楽しんでいる。入浴剤は、皮膚の弱い人以外は、利用している。異性の入浴介助にも問題はない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に戻られてからの自由は確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬がある方に対して、職員が服薬支援を行い毎日の状態を観察しているので症状の変化の確認は出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の嗜好品に対しては、支援できているが、気分転換等の支援は不十分だと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩ける方は外出しているが、自分で歩けない方はなかなか外出の機会が持てない状態である。	日常の生活の中で外出の希望を訴える利用者は少ないが、帰宅願望の強い方には、家に連れて行ったりして対応している。家族との外出の際には、お茶や食事を楽しんだり、ちゃぐちゃぐ馬っこ等を見に行く利用者もいる。事業所としても季節に合わせてドライブをし、花見や紅葉を見に行ったりしている。今後も職員体制を整えながら、少しでも出掛ける機会を増やしたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていないので、使えるような支援はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者がいないので、支援として不十分である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル椅子の配置など工夫し、ゆったりと過ごせるよう支援している。	壁や天井はクリームや白の明るい色調で広々とし、ロビーには、食食用テーブル、ソファが配置され、テレビ、折り紙、季節の飾りなど、清潔感の感じられる落ち着いた雰囲気となっている。温度や空調はエアコン、加湿器、換気扇などで、管理され、快適な環境のもとで、利用者は食堂の椅子やソファに座り、テレビを見たり、談笑をしたりして、穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士が思い思いに過ごせる共用空間を提供し、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを居室に置くなどし、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	張り出した天窓から自然光が入り、窓からは外が見える。ベッド、ダンス、クローゼット、時計、ナースコールなどが設置されている。また、テレビ、机、ソファ、衣装ケース、家族写真など、それぞれの意向に沿ったものが持ち込まれ、空調はエアコン等で管理された居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自立に向けての生活空間として、過ごせるように工夫している。		